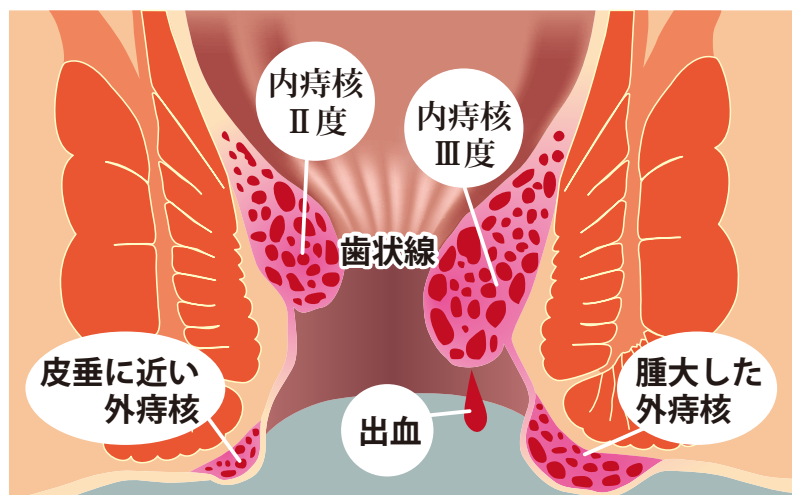


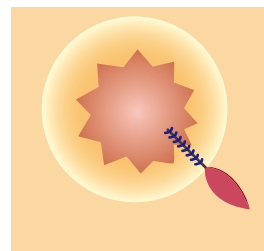
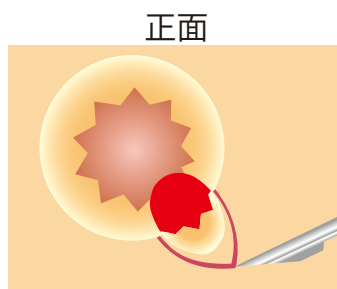
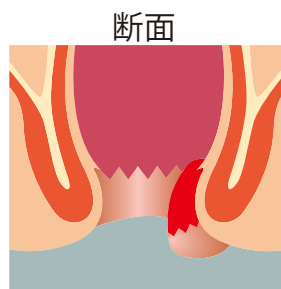
痔核根治術について



過度のいきみ、血行障害などにより生じる肛門部の腫れであり、一般に「いぼ痔」とよばれるものです。肛門の歯状線の中にあるか外にあるかによって、内痔核、外痔核に分けられます。

歯状線より上方の上直腸静脈叢に発生したものを内痔核、歯状線より下方の下直腸静脈叢に発生したものを外痔核といいます。

- ◎ 痔核のタイプに応じて治療方針が変わります。
- ◎ 内痔核であれば、手術・ジオン・PPHなど色々な方法で治療できます。
- ◎ 症状のひどい内痔核や外痔核は痔核根治術しなければ治りません。



手術の合併症

- ① 術後出血 肛門は血行の豊富な部位ですので、縫合したところが切れて出血したり、血管結紮をした糸が便の通過による物理的な原因ではずれたりすることもあります。出血が多い場合には、手術室で麻酔をかけてもう一度血管結紮を行わなければなりません。紙に付く程度の出血は全く心配ありません。痔核の一般的な手術はたいていキズはオープンですから排便時に少しは出血があります。
- ② 排便時の痛み 肛門は敏感な部位ですので、排便時にクズの痛みを訴える人はけっこうあります。ウォッシュレットによる洗浄を頻回に行うことによりキズを清潔に保つことが大切です。
- ③ 肛門狭窄 (狭くなる)
- ④ 手術創部 (キズ) の腫れ 外痔核を併発している人は術後にキズの腫れを起こすことがあります。手術前より腫れることもありますが、座薬や軟膏の使用、肛門の保清により数週間でよくなります。

麻酔の合併症について

(腰椎麻酔) *局所・全身状態及び麻酔深度によっては全身麻酔になることもあります。

- ①術中： 血圧低下、呼吸抑制、悪心・嘔吐など
- ②術後： 頭痛、脳神経麻痺第Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅶ脳神経 (特に外転神経麻痺による複視)、脊髄神経麻痺 (馬尾症候群)、髄膜炎など